

① 大会出発前の状況、心境、目標

今回のジュニアワールドは二度目であり、去年の成績は全然納得のいくものではありませんでした。なので今年はメダルレースに出場し入賞することを目標にしました。その為に、江の島でナショナルチームとの合同練習や、小戸で九州大学や日本経済大学の皆さんと一緒に練習をしました。普段の練習ではあまり経験できない艇数の多いスタート練習やコース練習ができたのでとても充実した合宿になり、ギリシャに臨むことが出来ました。

② 現地到着後の状況

遠征期間中は天候に恵まれ、毎日快晴でした。なかには 40 度を超える日もあり、整備をする時などとても暑くなかなか集中できませんでした。大会前にはアレキサンダーザグレートカップという大会に参加して、実際のレース海面でジュニアワールドに出る他国の人とレースをすることで海面の状況や自分が今どの位置にいるのか知ることが出来ました。

③ 各レース展開

今レガッタの風の傾向としては時間がたつにつれて左に振っていく海面で、ブローは右の方が強いフラットな海面でした。風が吹いても 13knt での風で、レース展開としてはスタートを決めることが出来ず、自分の思うコースを引くことができなくてスピードがなかったため追い上げることができませんでした。後半につれてセッティングやトリムを変えて海外レースにも慣れてきたので順位が良くなってきました。しかしスタートのミスが目立ったので日本に帰ってからの練習内容が明確になりました。

④ 大会の印象

陸上でも海上でも AP 旗が掲揚されることが多く、運営があまり慣れていないように感じました。

⑤ 目標達成の有無

メダルレースに出場し、入賞することを目標にしていたが結果は 18 位と目標には届きませんでした。ですが、ペアと話して少しずつボート感覚が良くなってきて、得るものも多かったので良かったです。

⑥ 今後のセーリング活動の目標

今回の 470 ジュニアワールドでは 18 位という結果になり目標であったメダルレースに出場することができなかったため、来年も目標を達成させるために日本で可能な限りレースや合宿に参加して経験と知識を増やし、来年もジュニアワールドの権利を獲得して目標を達成させるためにセーリング活動をしていきます。

⑦ 日本のセーラーに向けてアドバイス

この遠征で強く思ったことは、世界で戦うに語学力が必須であると感じました。今回は英語が話せる帯同コーチがいたので頼ってしまっただけでしたが、もしいなかったら、すべて自分で対応しないといけないので語学力を高めることは大切だということを感じました。

